

統計検定 2 級の解説 サンプル
第1種、第2種の過誤、検出力

(関連問題)公式問題集(CBT対応版)

p123問10, p184問13

(p123.2a) [C8]問10.(準備)第1種、第2種の過誤、検出力

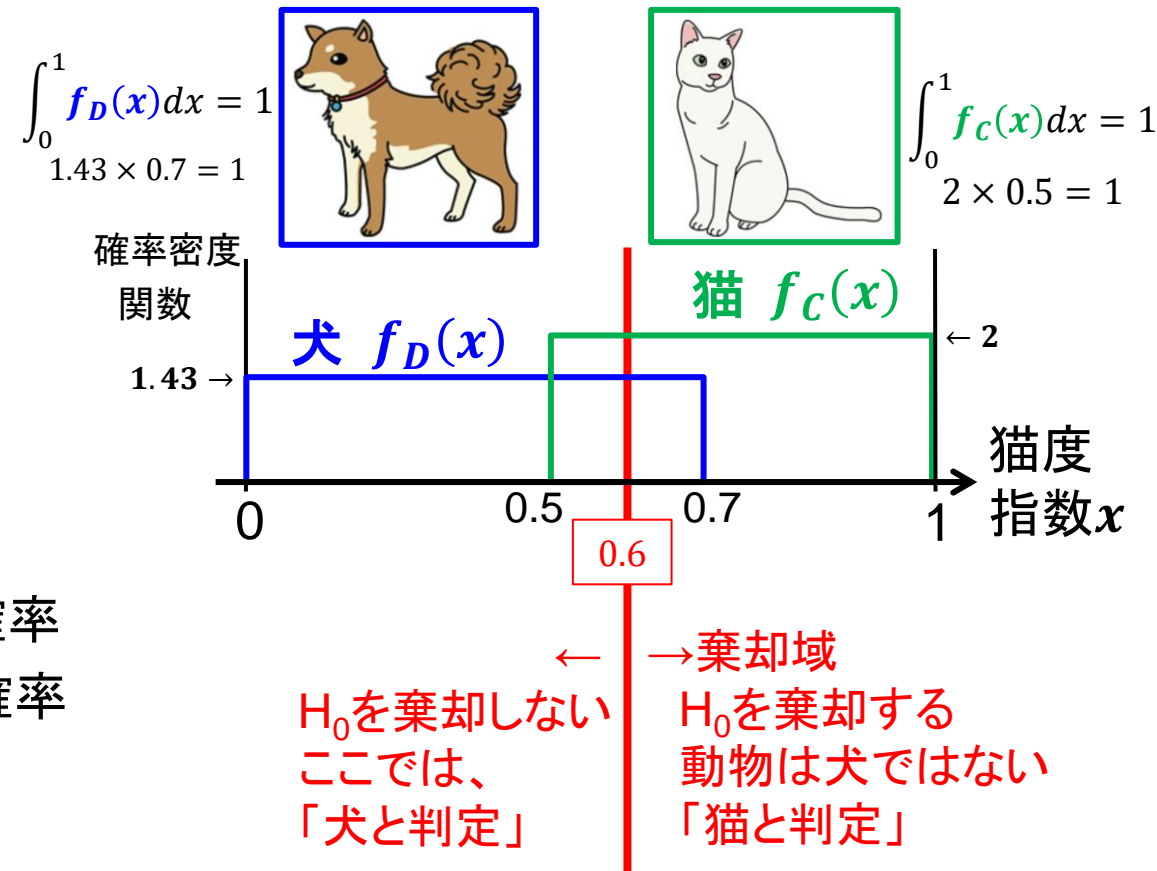
(例)動物(犬または猫)が写った写真から、「犬」と「猫」を判別するシステムがあります。
 写真に写った動物(犬または猫)のパーツ・特徴(耳、目、ひげ、前脚、胴体、後脚、尻尾、毛並み、大きさ、色など)から、「猫度指数」を算出します。猫の「猫度指数」は大きく、犬の「猫度指数」は小さいです。

帰無仮説(H_0): 写真の動物は犬である
 対立仮説(H_1): 写真の動物は猫である を考えます

「猫」、「犬」の写真に基づく「猫度指数」の分布は右の通り(連続型一様分布)だったと仮定します。

帰無仮説(H_0)の棄却域を
 $x \geq 0.6$ とした時に、

- (1) 犬を猫と誤判定してしまう確率は? ⇔ 第1種の過誤の確率
- (2) 猫を犬と誤判定してしまう確率は? ⇔ 第2種の過誤の確率
- (3) 猫を猫と正しく判定する確率は? ⇔ 検出力



(p123.2b) [C8]問10.(準備)第1種、第2種の過誤、検出力

(1) 犬を猫と誤判定してしまう確率は？

第1種の過誤

あ(A)わて者の誤り

Q1:どの部分の確率を求めたらいいでしょう？

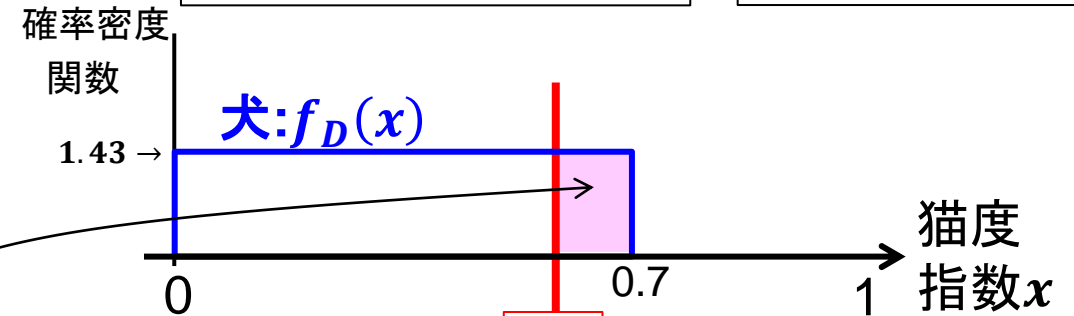
⇒右図の

Q2:確率はいくらでしょう？

$$\alpha = 1.43 \times 0.1 = 0.143$$

帰無仮説(H_0):
写真の動物は犬である

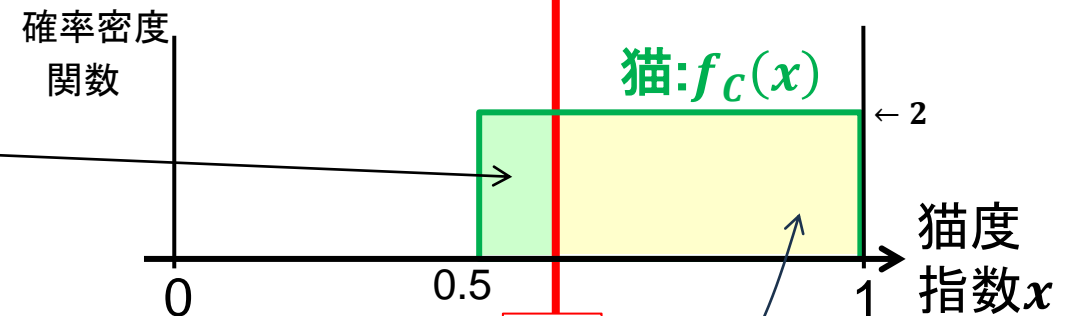
対立仮説(H_1):
写真の動物は猫である



(2) 猫を犬と誤判定してしまう確率は？

第2種の過誤

ぼ(B)んやり者の誤り $\beta = 2 \times 0.1 = 0.20$



(3) 猫を猫と正しく判定する確率は？

検出力

$$1 - \beta = 2 \times 0.4 = 0.80$$

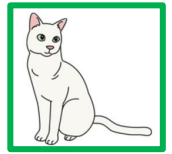
(p123.2c) [C8]問10.(準備)第1種、第2種の過誤、検出力



H_0 : 帰無仮説
 H_0 が成立(犬である)

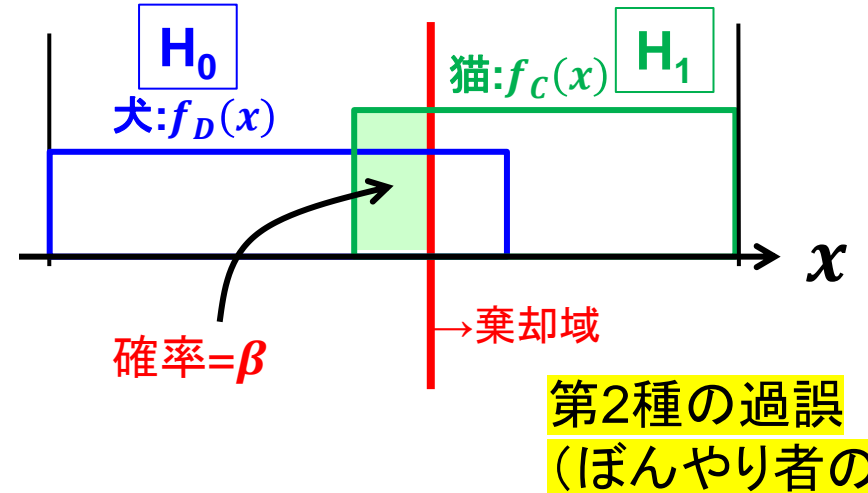
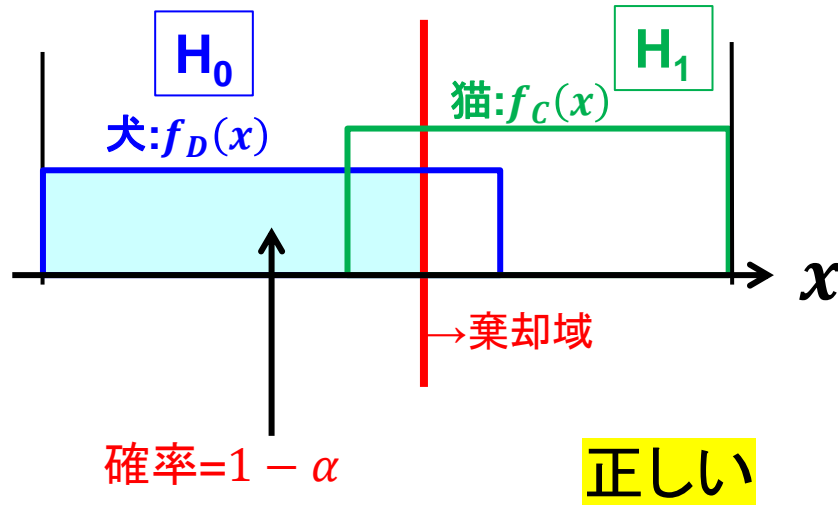
事実

H_1 : 対立仮説
 H_1 が成立(猫である)

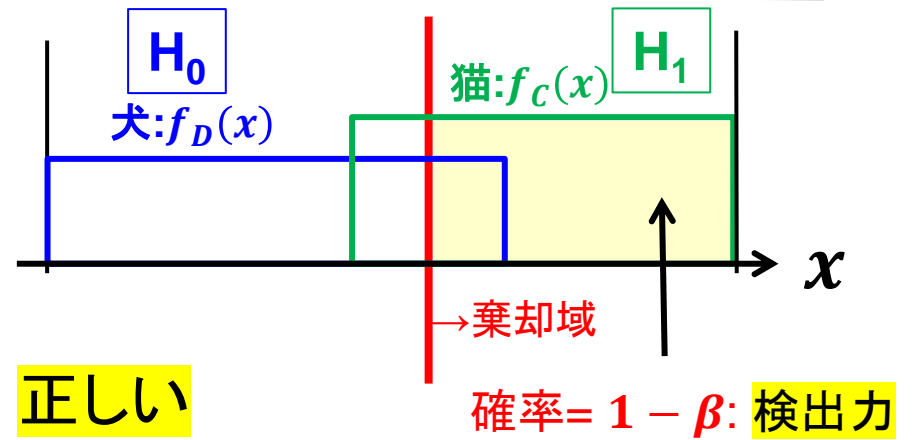
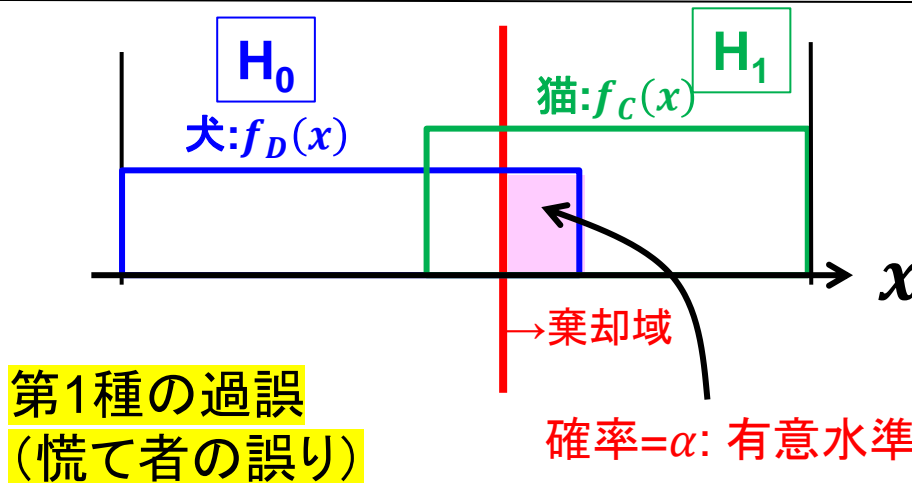


検定結果

H_0 が正しい
 犬と判定される



H_1 が正しい
 猫と判定される



(p123.2d) [C8]問10.(準備)第1種、第2種の過誤、検出力

Q: 分布が、「一様分布」でなく、「正規分布」の場合、第1種、第2種の過誤の確率、検出力は計算できる？

⇒計算できます！

帰無仮説(H_0): 写真の動物は犬である

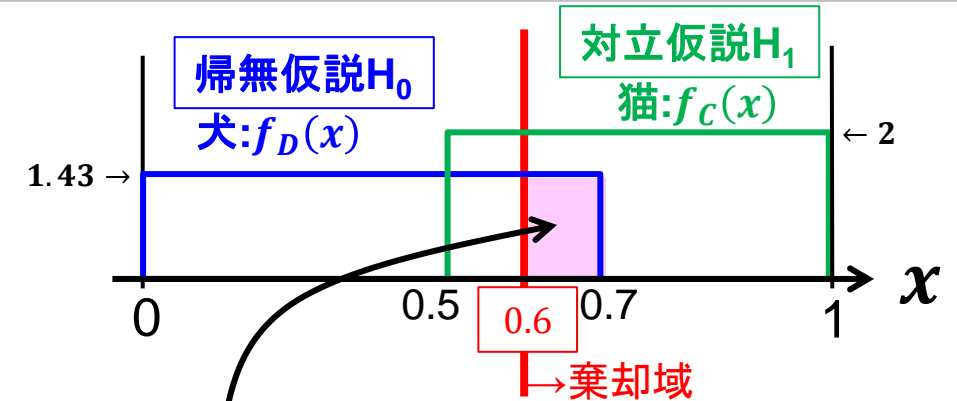
⇒ (例) $x \sim N(0, 0.4^2)$ の場合を考えます

(例)第1種の過誤(慌て者の誤り)の場合:

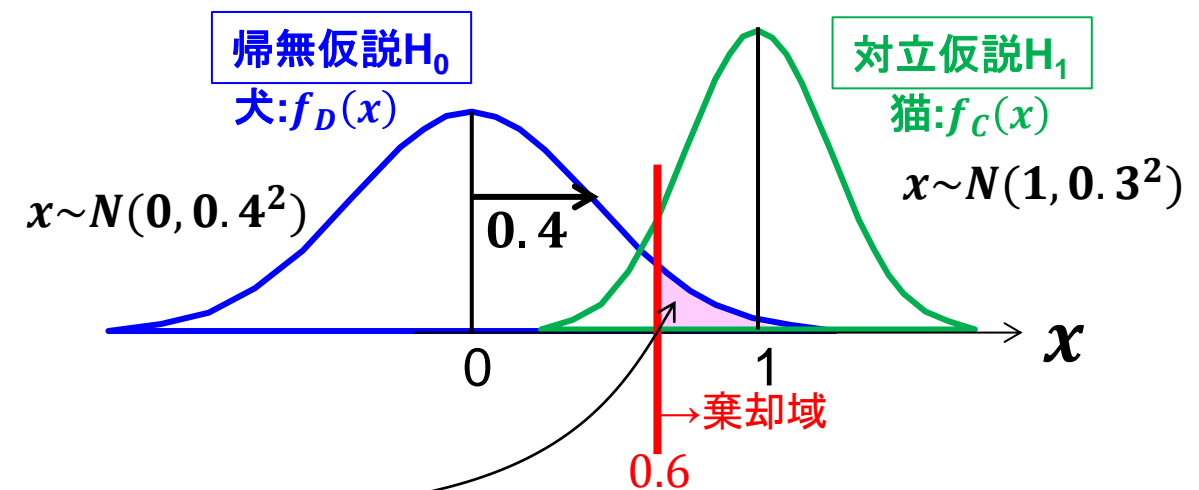
$$\alpha = Pr(x \geq 0.6)$$

$$= Pr\left(z \geq \frac{0.6}{0.4} = 1.5\right) = 0.0668$$

(解説) $x \sim N(0, 0.4^2)$ より、標準化: $z = \frac{x}{0.4} \sim N(0, 1)$ すると正規分布表より確率が求まります



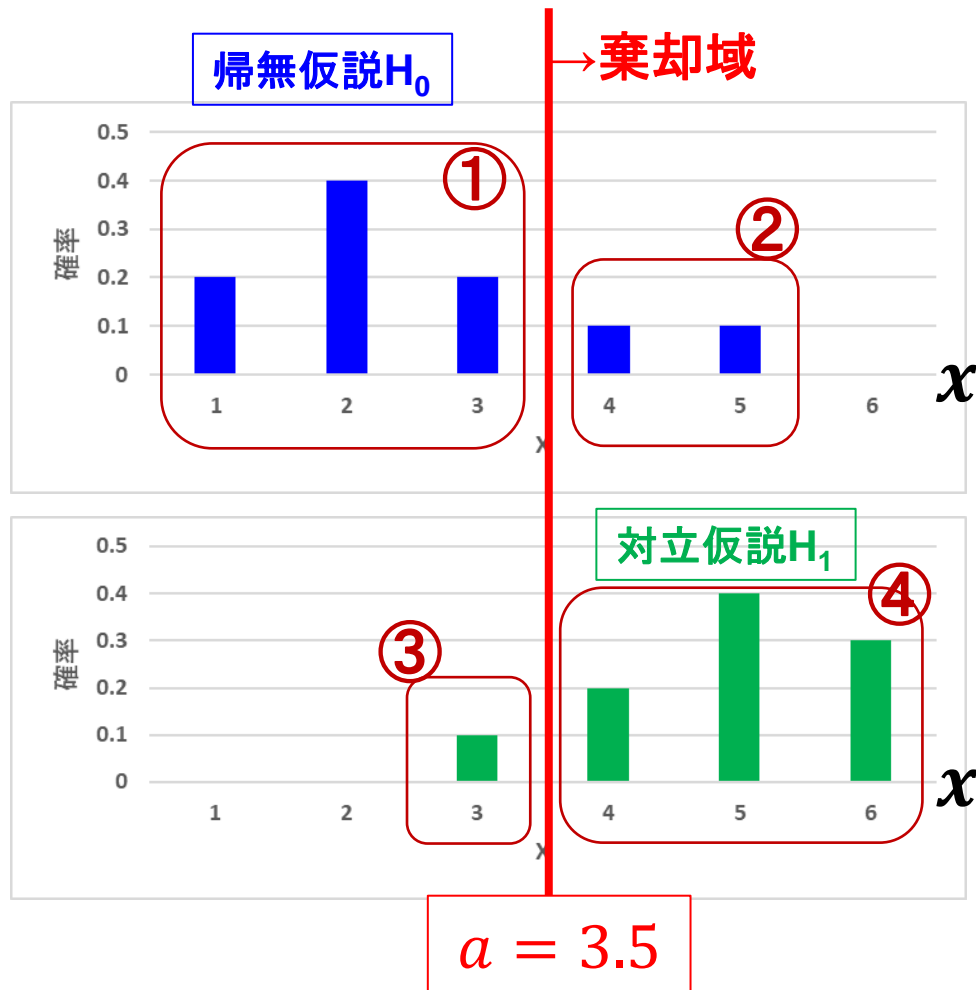
$$\alpha = 1.43 \times 0.1 = 0.143$$



(p123.2e) [C8]問10.(準備)第1種、第2種の過誤、検出力

Q. 連続分布でなく、離散分布の場合は、計算できる？ ⇒計算できます！

(例)出題例:2018年6月問13



		H_0 が成立	事実 H_1 が成立
検定結果	H_0 が正しい	① 正しい 確率 = $1 - \alpha = 0.8$	③ 第2種の過誤 (ぼんやり者の誤り) 確率 = $\beta = 0.1$
	H_1 が正しい	② 第1種の過誤 (慌て者の誤り) 確率 = $\alpha = 0.2$	④ 正しい 確率 = $1 - \beta = 0.9$: 検出力